

日本生育外国人児童のリテラシー発達に関する調査プロジェクト
H26-29 科学研究費(基盤B) 課題番号26284071 代表:東京学芸大学 齋藤ひろみ
研究課題:地域・家庭の言語環境と日本生育外国人児童のリテラシー発達に関する調査研究

多様な言語文化背景を持つ子どもたちのリテラシーフォーラム2
「子どものリテラシーを多面的にとらえる」

文法の誤り

——「です・ます」形に着目して——

発表者:阿部 志野歩
北澤 尚
齋藤 ひろみ

1. 目的と調査方法

- 目的

日本生育外国人児童のリテラシー能力に関し、作文に表れた文法的な誤りの分析を通して、作文を書く力の一つとしての文法の力の発達を探る。

- 調査方法

2007年、2008年入学児童47人(外国人児童(F)33人、日本人児童(J)14人)の2-6年の出来事作文から文法的な誤りを抽出して分類し、FとJそれぞれの誤りの特徴や学年による変化を分析した。

2 文法的な誤りの種類

(1) 「文法の誤り」と「周辺の誤り」

文法的な誤り

文法の誤り

- ・助詞
- ・活用形式
- ・接続助詞
- ・テンス／ヴォイス／アスペクト
- ・接続詞
- ・その他

周辺の誤り

- ・語の選択／重複／不要な語句
- ・口語表現

2 (2)「文法の誤り」と「周辺の誤り」の例

1. 動物園では、にわとりがいました。
F6年 助詞

2. カッコイイでした。
F2年 活用形式

3. たのしくてつかれました。
J3年 接続助詞

4. 私の好みじゃなかったののでさわつてませんでした。
F6年 アスペクト

5. 遊び方はかんたんです。(略)す
べるだけです。でもジェットコース
ターよりはおそいけど(略)。
F5年 接続詞

1. ヒトデもありました。

F3年 語の選択

2. わたしは、遠足の前の日
に、わたしはたのしみでし
た。

F4年 重複

3. かおがついてて.....。

J2年 口語表現(縮約形)

※会話文の中からは採取し

ていない

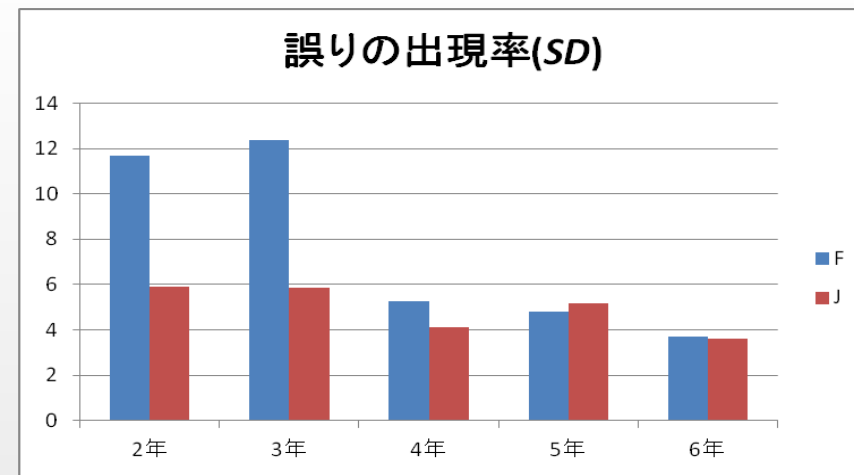
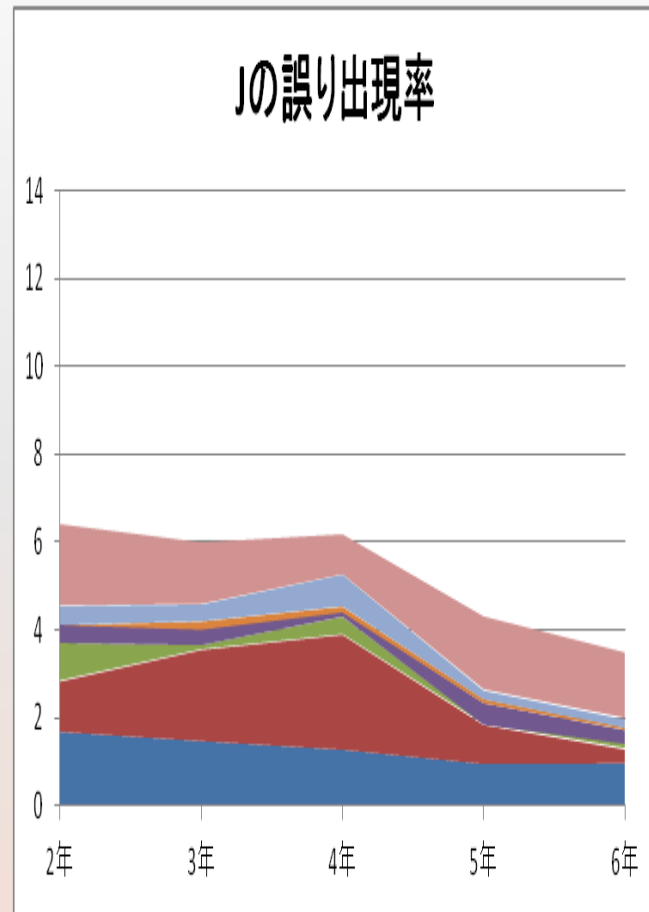
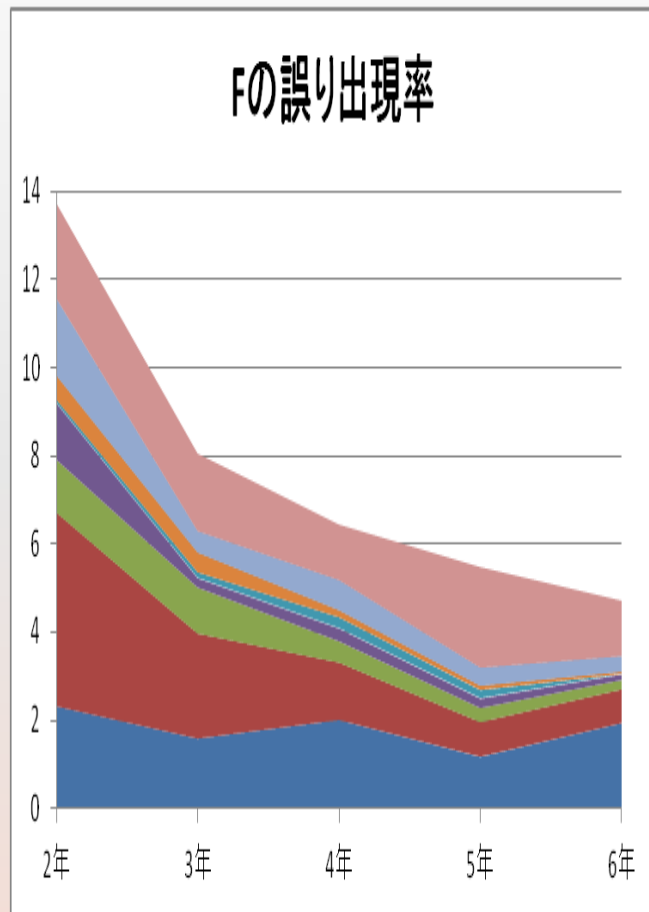
3 分析内容

- ①「誤り出現率」を算出し、F、Jの「文法的な誤り」の多
全体的な特徴と学年による変化を捉える。

$$\text{誤り出現率(\%)} = \text{誤りの数} \div \text{文節数} \times 100$$

- ②「活用形式」の誤りの出現状況を調べる。
- ③「です・ます」形の誤りの出現を「口語表現」の誤りの出現
との関係から捉える。
- ④2つのケースについて、「です・ます」形の誤りの学年によ
る出現状況を分析する

4 結果① 「文法的な誤り」の出現率



F2-3年で個人差が大きい

Fは2年ではJの2倍以上。3年までに急減し、その後も減少。しかし、6年でもJより高い。

F、Jともに助詞、活用形式、口語表現の誤り出現率が高い。

2～6年の活用形式の誤りの出現率の変化にFとJの違いが見られる

- 助詞
- デンス・アスペクト・ヴォイス
- 接続詞
- 語の選択/重複/不要な語句
- 活用形式
- 接続助詞等
- その他
- 口語表現

5 結果② (1) 「活用形式の誤り」の例と出現状況

1. おいしかたです (F2年)
2. いなくなっていました(J2年)
3. かわいかったです (F4年)
4. 見してもらう (F4年)
5. 食べれました (J4年)
6. 見る(「見て」の代わりに)(F3年)
7. きれくて (F5年)
8. 1日だったです (F5年)
9. うごかなかったです (F4年)
10. 痛いでした (F5年)
11. 遊ぶます (F6年)

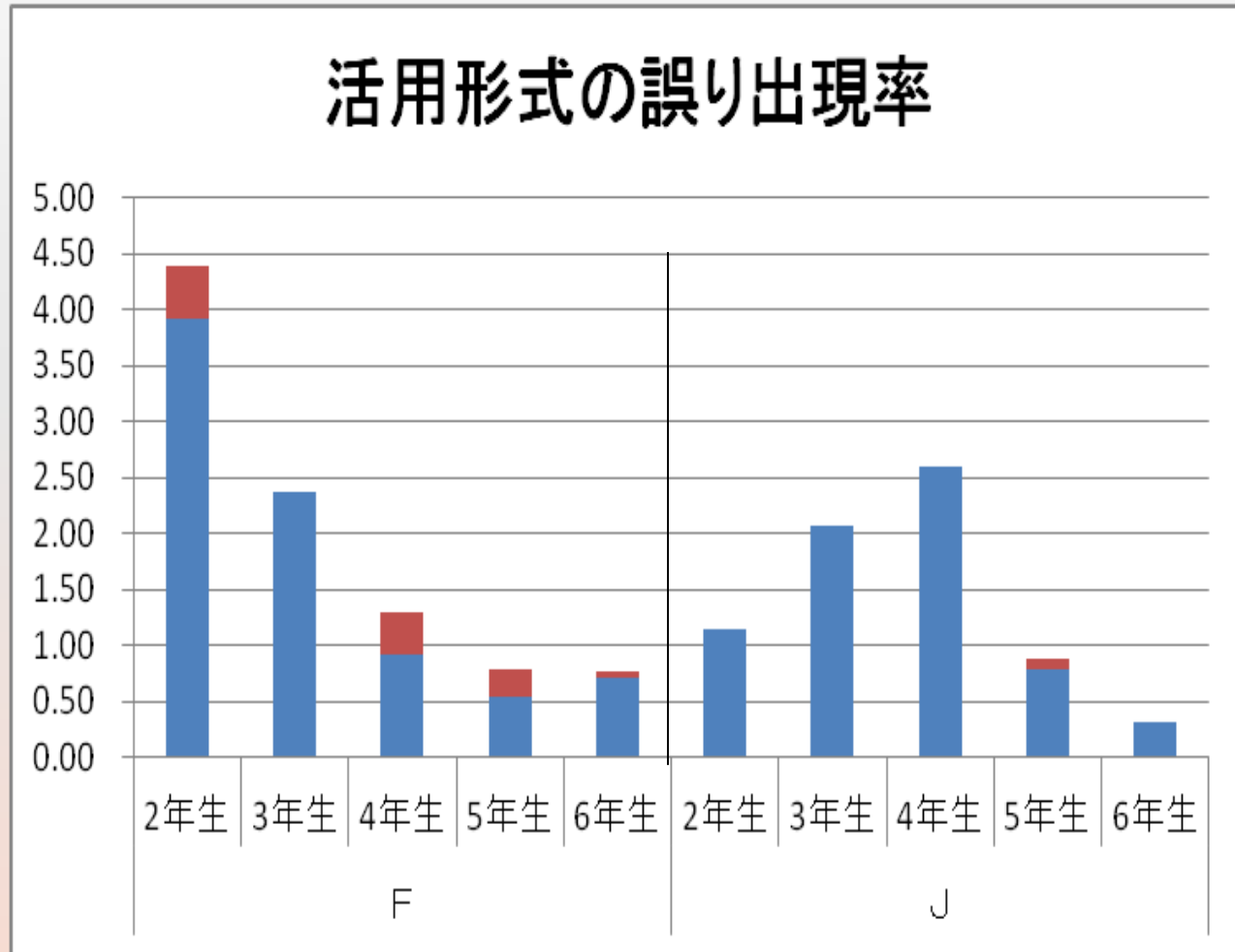
表記ミスの可能性が高い
活用形式の誤り全体に占める割合は
F71%、J77%

話しことばの影響の可能性が高い
F12%、J21%

活用形＋丁寧体で使われる助動詞
「です・ます」の組み合わせの誤り
→ 「です・ます」形の誤りと呼ぶ。

**Jには1件のみ、
他は全てF**

5 結果② (2)「です・ます」形の誤りの割合



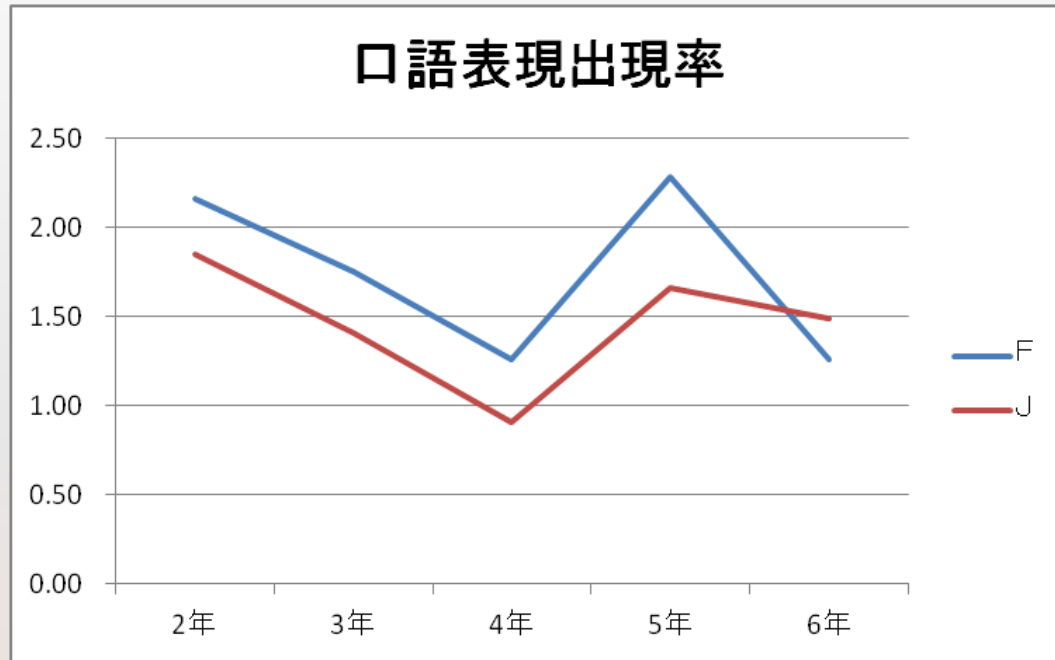
出現件数も、活用形式の誤りに占める割合もわずか。しかし、Fは3年を除く各学年に見られる。33名中10名(約30%)に出現。Jは5年に1件のみ。

赤色:「です・ます」形の誤り

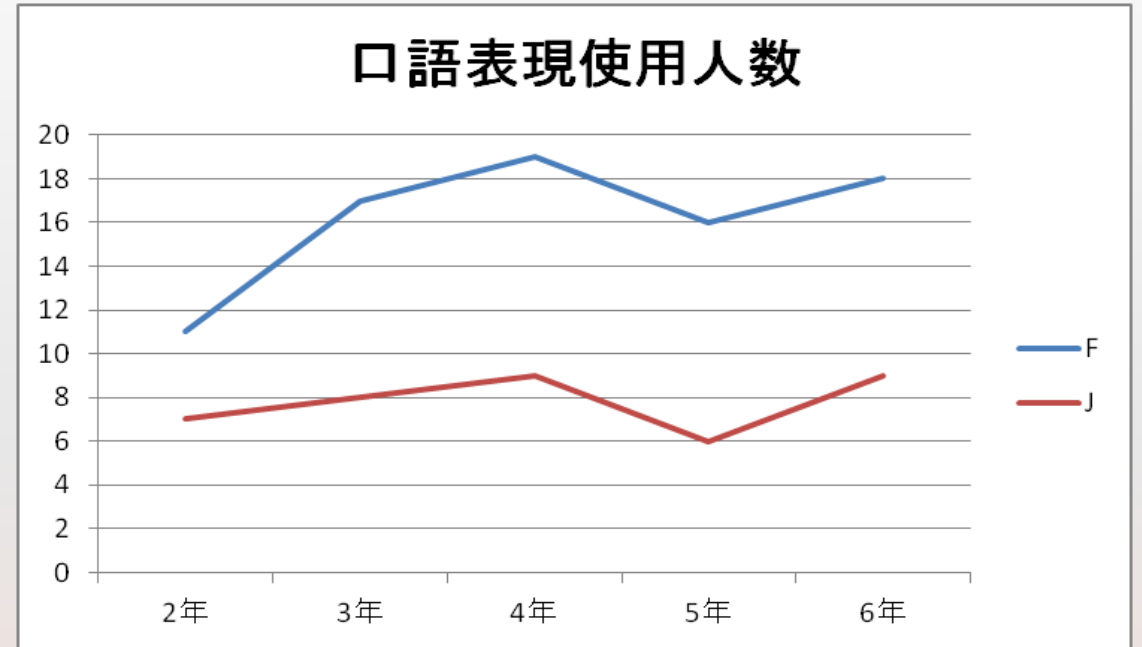
5 結果2 (3)「です・ます」形の誤りのパターン

辞書形＋です	寝るです
辞書形＋でした	かわいいでした×2、カッコイイでした、いたいでした、大きいでした
辞書形＋ました	あそぶました
た形＋です 口語表現としては許容？	おいしそうだったです、くずれそうだったです、かまれそうだったです、 たいへんだったです、ざらざらだったです、やる所だったです、 1日だったです、金魚だったです、おれんじだったです、 (以上、形容動詞および助動詞ダ。「でした」が正用)
	あつめれなかつたです、こなかつたです、まわれなかつたです、 うごかなかつたです、つくれなかつたです (以上、助動詞ナイ。「ませんでした」が正用)
	つかれたです×2、言つたです (以上、動詞。「ました」が正用)
た形＋でした	いたかつたでした×2、たのしかつたでした、おいしかつたでした、 はずかしかつたでした、しつようばかつたでした
た形＋ました	つかれたました(J5年)
ます＋した	おべんとうおいいただきますした、あとに、…

6 結果③ (1) 口語表現の出現状況



口語表現の出現率
2-5年までFが高い。
6年で逆転。



使用児童数 全児童47人(F33人、J14人)
Jは7-9人で推移(50.0~64.3%)。
Fは4年まで11人(33.3%)から19人(57.6%)へと増加。6年で18人(約54.5%)。

6 結果③

(2) 6年時の口語表現の使用と「です・ます」形の誤り出現数

6年時の口語使用		「です・ます」形の誤り
無	20名	1名
有	27名	10名

6年での口語	F/J	児童番号	2年	3年	4年	5年	6年
無	F	a	3				
		b			1	3	2
		c			2	4	
		d	1		4		
		e	1		3		
		f			2		
		g			2		
		h			1		
		i			1		
		j	1				
		k	J				1

6年時点の口語表現の有無と、2～6年の全作文に1件でも「です・ます」形の誤りがある児童の数

6年で口語表現の使用がある児童に、「です・ます」形の誤りが見られる傾向にある。その出現数は4年生に多い。話しことばから書きことばへのシフトの意識化によって、「です・ます」形の誤りが起きるのでは？

児童c、dのケースを詳しく見る。

7 結果④ (1) ケースC 日本生まれ ベトナム

ケースC 4年 作文の抜粋

あざらしが**かわいいでした**。それにペンギンが**かわいいてした**。それにペンギンがおよいてるばし**かわいかったです**よ。それにじんべえざめのにてるさかながいでそのさかなが**かわいかったです**。それにイルカしょおでくじらのなかまのでかさ**でかかったです**。それにタコがいました。それにタコはぼくの、あしのぐらいのでかさ**でした**。すこく**でかかったです**。それにあざらしがいつもきすをしてるそうです。それにかくれくまのみが**かいました**。

形容詞の活用形+「です・ます」形の組み合わせに関し

誤り : かわいいでした、かわいいてした

正しい : かわいかったです、でかかったです

か(わ)いかったです(表記ミス?) かわい**い**かったです(活用形の誤り)

4年では、形容詞過去の「です・ます」形に揺れがある

7 結果④ (1) ケースC 日本生まれ ベトナム

5年では、形式「いたかったでした」等と正しい形式「たのしかったです」が混在している。

ケースC 5年作文からの抜粋

でもちょっとおそりが**いたかったでした**。でも**たのしかったです**。それにかえるときわくたくたでした。たくさんある**いた**のであしが**いたかったでした**。それにかえるときあるくのがおそかったので2年生にひっぱられていきました。ちょっと**はずかしかったでした**。

6年では、形容詞過去の「です・ます」形は、全て正しい形式を用いている。「たのしかったです」(4)、「おいしかったです」、「こわかったです」、「よかったです」

形容詞過去の「です・ます」形に関して、4、5年生での揺れを経て、6年で正しい形式に安定した

7 結果④ (2)ケースd 日本生まれ ベトナム

ケースd 2年作文 抜粋

あっちいったり、こっちいったりして、**つかれたです**。…(一文省略)…。
でも、がんばりました。…(一文省略)…。こうていから〇〇こうえんにつ
くまで**つかれました**。あつくてあつくて、のどかわいたけど、きもちくて**き
もちい**です。

2年時には、動詞の「活用形＋です・ます」の組み合わせに関して、正しい形式と誤った形式が混在している。

誤り : つかれたです

正しい : つかれました

※形容詞の「です・ます」形

正しい : きもちいです (活用形の誤り)

3年の作文では動詞の「です・ます」形は、全て正しい形式であった。

言いました、くっついていました、おこられました(2)

7 結果④ (2) ケースd 日本生まれ ベトナム

4年には、名詞+「です・ます」形、動詞否定過去+「です・ます」形に誤った形式が見られる。

ケースd 4年作文抜粋

おれんじで、とてもキレイなキンギョだったです。ヒトデもいました。色は、くろ、おれんじ、だったです。ヒトデは、ぜんぜんうごかなかったです。...(中略)...。時間になったのでつくれませんでした。あかちゃんカメをもっともつとカワイクつくりたかったです。でもつくれなかつたです。

名詞 「です・ます」形の誤り: キンギョだったです、おれんじ だったです、

動詞 「です・ます」形の誤り: うごかなかったです つくれなかつたです

正しい: つくれませんでした

5年、6年では「です・ます」形の誤りは見られない。

名詞・動詞の過去の「です・ます」形に関し、4年生まで揺れがあり、その後、正しい形式に落ち着いた。

8. まとめ

(1) 全体の傾向

Fの誤りの出現率は、低学年ではJの2倍以上であり、学年が上がるにつれ差が小さくなるが、Jより高いまま。Fは低学年で個人差が大きい。

(2) 活用形式

F・J問わず、活用形式の誤りの割合が高く、その多くが表記ミスや口語で使っている形式の使用と考えられる。一方、「です・ます」形の誤りはFの特徴と言えそうだ。

(3) 活用形式への口語表現の影響

口語表現の使用がある児童に、「です・ます」形の誤りが見られ、話しことばから書きことばへのシフトがいつ起きるかが、Fの「です・ます」形の出現に影響していると考えられる。

ただし、F・Jともに、口語表現として定着している形式は、書きことばへのシフト後も使われている。

ご清聴、ありがとうございました。